

（仮称） 将来ビジョンの構成（案） ・ 公園の目指す姿

国土交通省近畿地方整備局
国営明石海峡公園事務所

目次

(1) 第1回有識者会議の振り返り	P2
(2) 将来ビジョンの目次（案）と第2回で議論いただきたいこと	P4
(3) 将来ビジョン（案）について	P6
第1章 はじめに	P7
第2章 国営明石海峡公園淡路地区の概要	P12
第3章 将来ビジョンの検討における視点	P21
第4章 国営明石海峡公園淡路地区の将来像と実現に向けた取組方針	P46

(1)第1回有識者会議の振り返り

第1回有識者会議の振り返り

■第1回有識者会議でのご指摘（抜粋）

<国営公園としてのあり方について>

- ・ 価値を最大化する方法を検討する必要がある。国営公園としての価値は変えず、現代的な考え方にアップデートしていくことが考えられる。

<将来ビジョンの位置づけや内容について>

- ・ 将来ビジョンの中にどの程度の取組内容まで記載するのか。ある程度大きな方針的なものを記載するのか。
- ・ 計画期間として、公園の周辺施設を含めエリアが全体としてどうなるかというのを見据えると、まずは5年後の姿をどう描いて、それに向けてどのように進むかというのを考える必要がある。
- ・ 誰がどんなことができるか等の“状況”を想定して、そのためにどんな事をすべきかというシナリオ検討が必要ではないか。

<将来ビジョンの実現にむけて>

- ・ 公園管理者やボランティア、Park-PFI事業者等、関係者間の連携強化が重要である。

(2) 将来ビジョンの目次(案)と 第2回で議論いただきたいこと



将来ビジョンの目次（案）と議論いただきたいこと

- 将来ビジョンの全体像として、目次（案）を整理。
- 本日の会議では、1～4章の内容について説明し、主に4章の「国営明石海峡公園淡路地区の将来像と実現に向けた取組方針」について議論いただきたい。

■将来ビジョンの目次（案）

章	章タイトル	節	節タイトル	会議での提示状況など		
				第1回	第2回	第3回以降
1章	はじめに	1-1	背景と目的	提示済み	—	—
		1-2	将来ビジョンの位置づけ	—	今回提示	—
2章	国営明石海峡公園淡路地区の概要	—	淡路地区の概要	一部提示	今回提示	—
3章	将来ビジョンの検討における視点	3-1	公園整備の経緯と上位計画	一部提示	今回提示	—
		3-2	国営公園として求められる役割	一部提示	今回提示	—
		3-3	利用者の動向・ニーズ	一部提示	今回提示	—
4章	国営明石海峡公園淡路地区の将来像と実現に向けた取組方針	—	淡路地区の目指す姿、実現に向けた取り組み方針	—	今回提示	—
5章	今後の取組・施策	5-1	公園全体の取組・施策（園外との連携含む）	—	—	提示予定
		5-2	エリア／施設単位での取組・施策	—	—	提示予定
6章	推進方策	—	推進体制	—	—	提示予定

第2回会議で
議論いただきたい
内容

(3) 将来ビジョン(案)について

第1章 はじめに

1 - 1 背景と目的

将来ビジョンの背景と目的

- 国営明石海峡公園淡路地区は、令和9年度で第一期供用から開園25周年の節目を迎え、様々な効果を発現する一方で、課題も見られるようになってきているところ。
- 社会情勢の変化や公園の利用状況等を踏まえた、公園の活性化に向けた今後の整備及び管理運営に関する方針策定を行うため、有識者や関係機関等による議論を行った。 ※本会議
- 当該将来ビジョンは、本公園における基本計画における理念、基本方針等を基本としつつ、社会情勢の変化、公園施設の設置・運営に係る主体の拡大等の状況も考慮に入れ、本公園の**活性化**を目的として、策定するものである。

第1章 はじめに

1 - 2 将来ビジョンの位置づけ

『活性化』の定義の整理

- ・ 近年の公園政策に関する重要な考え方である「使われ活きる公園実践のヒント（国土交通省）」から、当該将来ビジョンにおける『活性化』の定義を以下の通り整理。

「使われ活きる公園実践のヒント（国土交通省）」

以下の3つの変革により、人中心のまちづくりの中でポテンシャルを最大限発揮するため、パートナーシップの公園マネジメントで多様な利活用ニーズにこたえ、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指す。

①「都市アセットとしての利活用」：まちの資産とする

公園のストックを地域の資産と捉え、能動的・機動的取組で地域の価値やシビックプライドを高揚する

②「画一からの脱却」：個性を活かす

公園の特性に応じたルールをオーダーメイドでつくり、公園の楽しみ方を広げ、新たな文化をつくる

③「多様なステークホルダーの包摂」：共に育て共に創る

パートナーシップの公園マネジメントを実践し、共有資産である公園を核にまちづくりへの関心を高める

【当該将来ビジョンにおける『活性化』の定義】

- 既存の公園施設・資源やポテンシャルを、『ストックの利活用、柔軟な管理運営、多様な担い手の参画』により、公園利用の増進を図るとともに、交流・賑わいの創出、暮らしの質や地域価値の向上につなげる

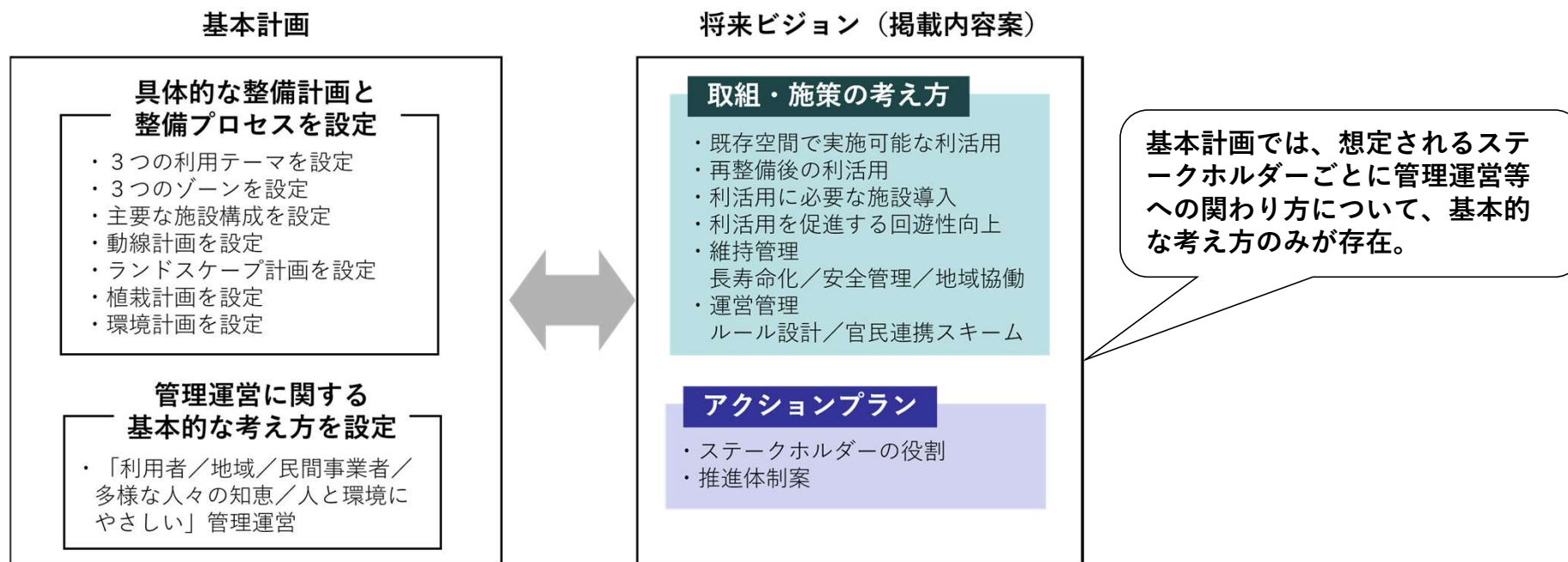
将来ビジョンの位置づけ

- 当該将来ビジョンにおける『活性化』の定義に加え、国営明石海峡公園基本計画（令和6年2月改定）で整理されている内容を踏まえ、将来ビジョンの位置づけを整理。

【将来ビジョンの位置づけ】

- 次の25年後（開園50周年）を見据えつつ、概ね10年後を想定して、基本計画を実現するための、具体的な取組・施策を示すもの。
- 併せて、取組・施策の実現に向け、推進方策としてステークホルダーの役割、推進体制等を示すもの。

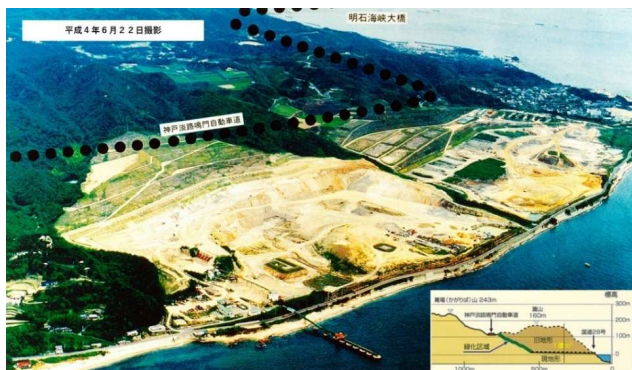
■基本計画と将来ビジョンの役割



第2章 国営明石海峡公園淡路地区の概要

淡路地区の概要

- 国営明石海峡公園 淡路地区は、関西国際空港等の大阪ベイエリアの埋立に使用された土取場跡地を兵庫県と連携して自然再生。
- 「海辺の園遊空間」をコンセプトに国際的な観光拠点となる公園として整備。平成12年に国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」の会場となり、平成14年3月に第一期開園。
- 年間入園者数は約50万人。令和4年3月に開園20周年を迎え、淡路地区の累計利用者数は令和6年度時点で1,000万人を超えた。
- 令和2年に国営公園では初のPark-PFIの事業計画（公募設置等計画）を認定。令和4年7月に施設オープン。



関西国際空港等の埋立に使用された土取場跡地



国際造園・園芸博「ジャパンフローラ2000」開催



淡路地区の整備状況



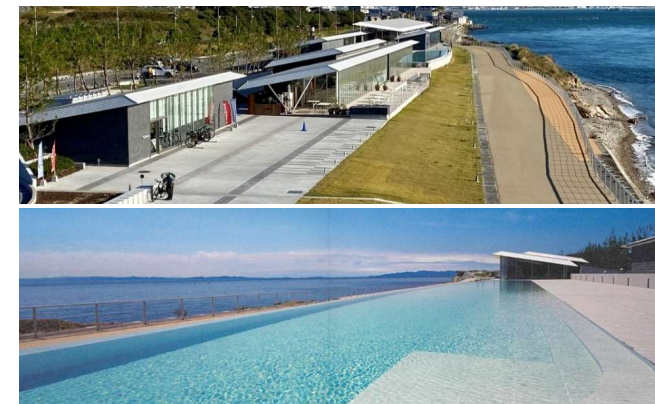
淡路地区の開園区域：大規模な花修景



大型遊具・水遊び場



芝生広場でのイベント（淡路市夏まつり）



Park-PFIによる複合温浴施設「アクアイグニス淡路島」

- 平成14年に淡路地区を開園して以降、順次開園区域を拡大しており、令和8年度現在、計画面積96.1haのうち、**47.2ha**を供用している。
- 直近では、令和7年5月にシースケープ・フィールドエリア北側（第8期開園）を部分供用した。

年度	項目
平成5年度	国営明石海峡公園の事業化
平成6年度	都市計画決定
平成7年度	工事着手
平成13年度	文化交流ゾーン、海岸ゾーンの各一部 供用開始
平成15年度	移ろいの庭、芝生広場 供用開始
平成16年度	ビジター棟、淡路口ゲート棟、芝生広場大型複合遊具 供用開始
平成22年度	淡路口駐車場、9号園路 供用開始
平成28年度	淡路口駐車場、細園路等 供用開始
令和4年度	シースケープ・ラウンジェリア 供用開始
令和7年度	淡路口駐車場の一部 供用開始 シースケープ・フィールドエリア北側 部分供用開始



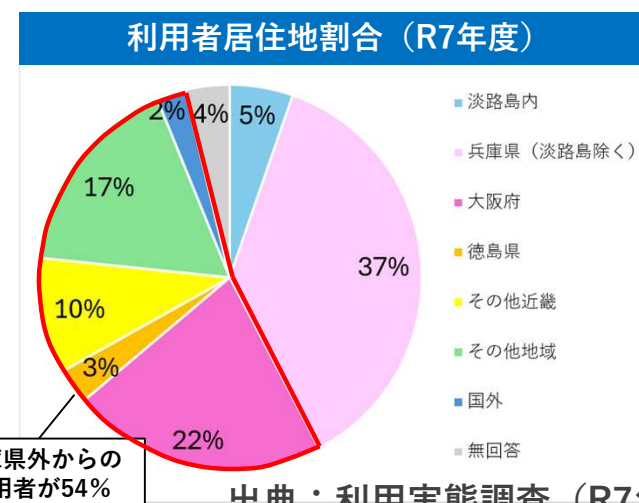
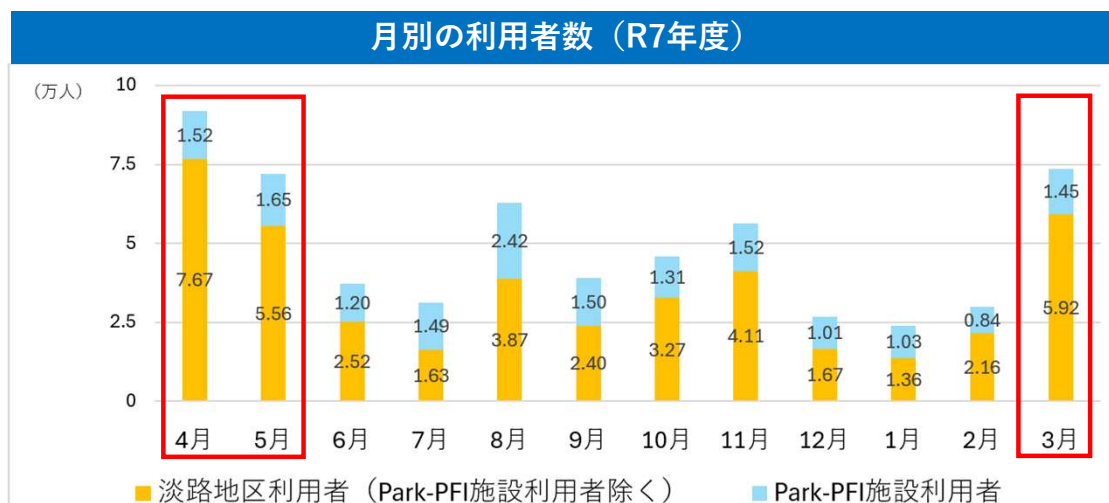
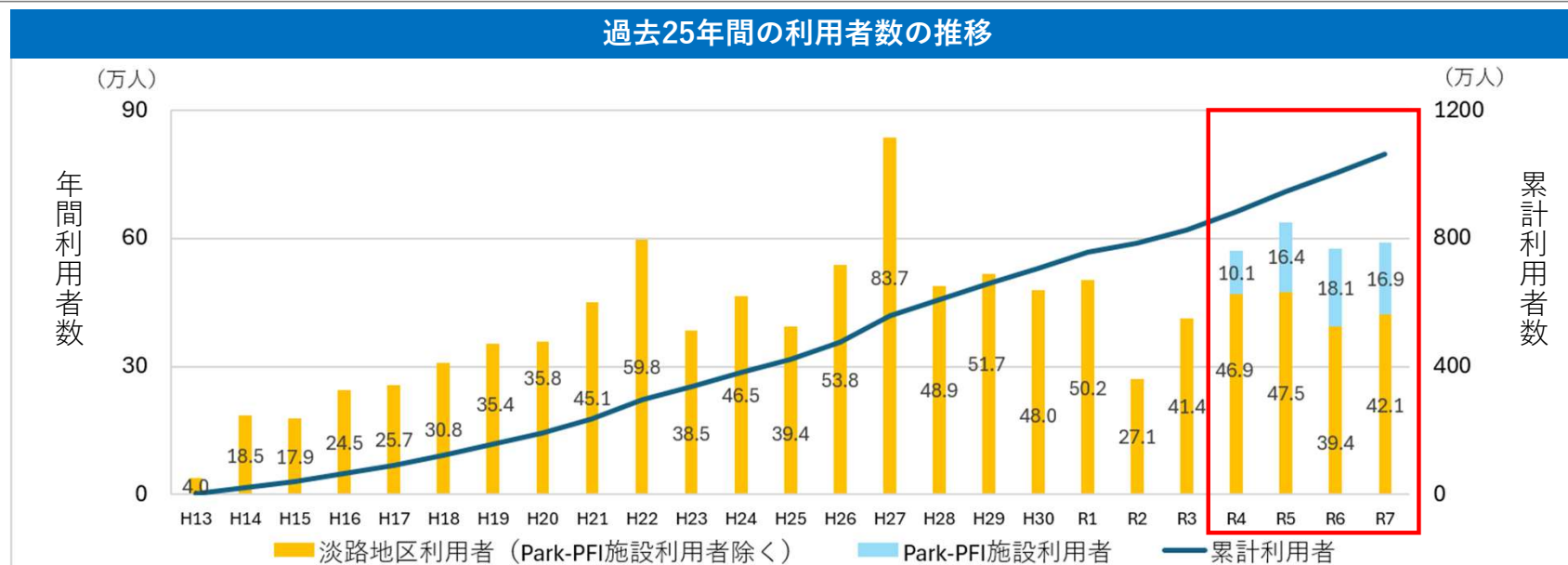
公園内の主な施設

- ・ 淡路地区園内には、芝生広場や大型複合遊具のほか、スワンボートを体験できる施設やアクアイグニス淡路島等の多様な施設がある。
- ・ 段階的に整備が進められてきたため、**開園当初から供用している施設では老朽化が進行している。**



利用者数

- 公園利用者数は令和7年度で約59万人となっている。一方、Park-PFI施設利用者を除くと公園利用者数は概ね横ばいで推移している。
- 月別の利用者数は、春（3月～5月）が多く、冬（12月～2月）が少なく、季節によって利用者数が変動する。
- 兵庫県外の利用者が54%を占め、大阪府22%、その他地域17%を中心に広域からの来園もみられる。



出典：利用実態調査 (R7年度)

淡路地区の特徴

- ・ 広域的な観光交流の拠点として、「花・海・遊・催」の4つの特徴がある。

花



四季折々の花修景を展開

海



大阪湾を一望できる展望の場

遊



大規模遊具やスワンボート等、多様な遊びの場を提供

催



芝生広場は大規模イベント会場として利活用

四季折々の花修景を展開

- 四季にあわせた多様な植栽を実施しているため、1年を通して様々な花修景を楽しむことができる。



3月 チューリップ



5月 ヤグルマギク&ルピナス



6月 ユリ&ニゲラ



8月 ヒマワリ



9月 ケイトウ



10月 コスモス



春 ビオラ



夏 ベゴニア

四季に応じて変化する花火鳥



秋 コリウス



冬 ビオラ&パンジー

多様な利用プログラムの推進

第1回会議資料再掲

- ・ 淡路地区では、公園の魅力や活動の可能性を発見し、人々に伝えることを目的に組織化されたボランティア団体「**海峡フレンズ**」が園内で様々な取組を実施しており、その活動は組織化20年が経過している。
- ・ ボランティア団体「**海峡フレンズ**」は20年を超えた活動の中で、一般来園者への園内案内や講習会開催など公園利用の状況を把握しながら、各自の活動を実施するだけでなく、公園管理センターとの共催で「**公園ガイド説明会**」を開催するなどその裾野の拡大に努めている。



園内案内



フラワーアレンジメント講習会実施



公園ガイド説明会開催

○登録ボランティアの活動実績（R6年度）

部会	登録者数	活動回数	延べ参加者数
園芸福祉	9	16	101
公園ガイド	17	37	231
コテージガーデン	11	23	162
草木染め研究会	13	12	77
公園大工	5	11	44
ペイントクラス	6	12	72
フラワーアート	9	8	52
植樹活動	4	9	33
野点	12	2	14
ニュースレター作成	0	0	0
合計	86	130	786

全体活動	活動回数	延べ参加者数
総会	1	30
定例会	11	298
合計	12	329

※一人が複数の部会に重複して登録

公園を取り巻く多様な主体

- ボランティア団体、学術機関、民間事業者、管理センター、兵庫県等が運営する周辺施設をはじめとして公園を取り巻く多様な主体が園内・園外に存在する。

■園内

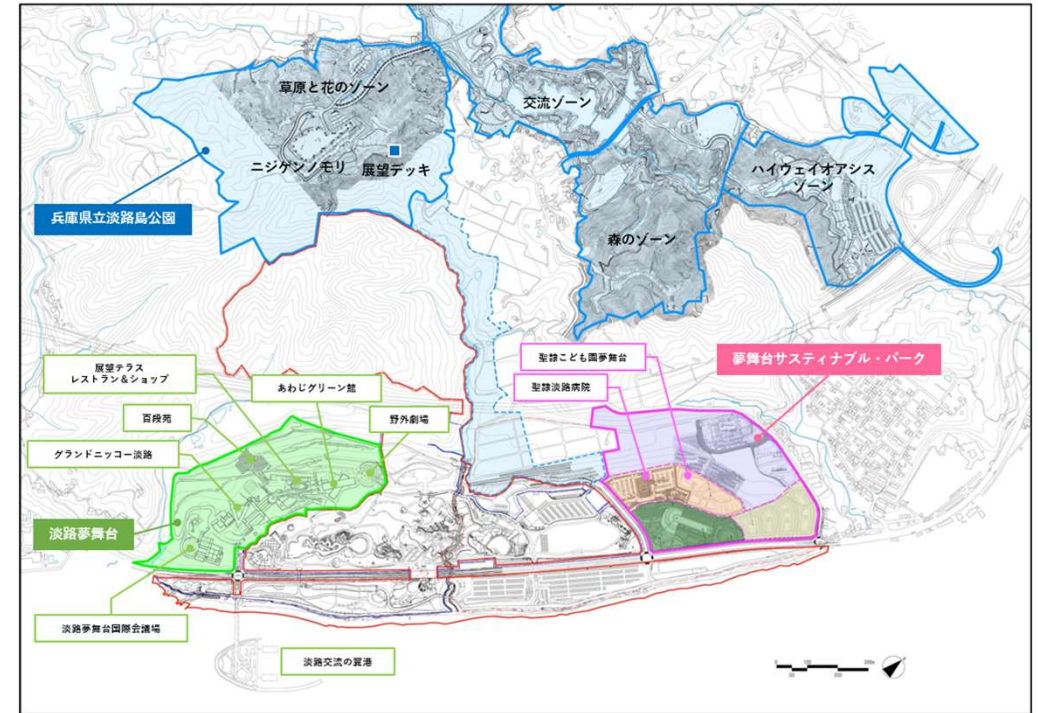
ボランティア団体（海峡フレンズ）



学術機関（大学・博物館）



■園外（周辺施設）



民間事業者（アクアイグニス淡路島）



管理センター



兵庫県（淡路夢舞台/淡路島公園等）



第3章 将来ビジョンの検討における視点

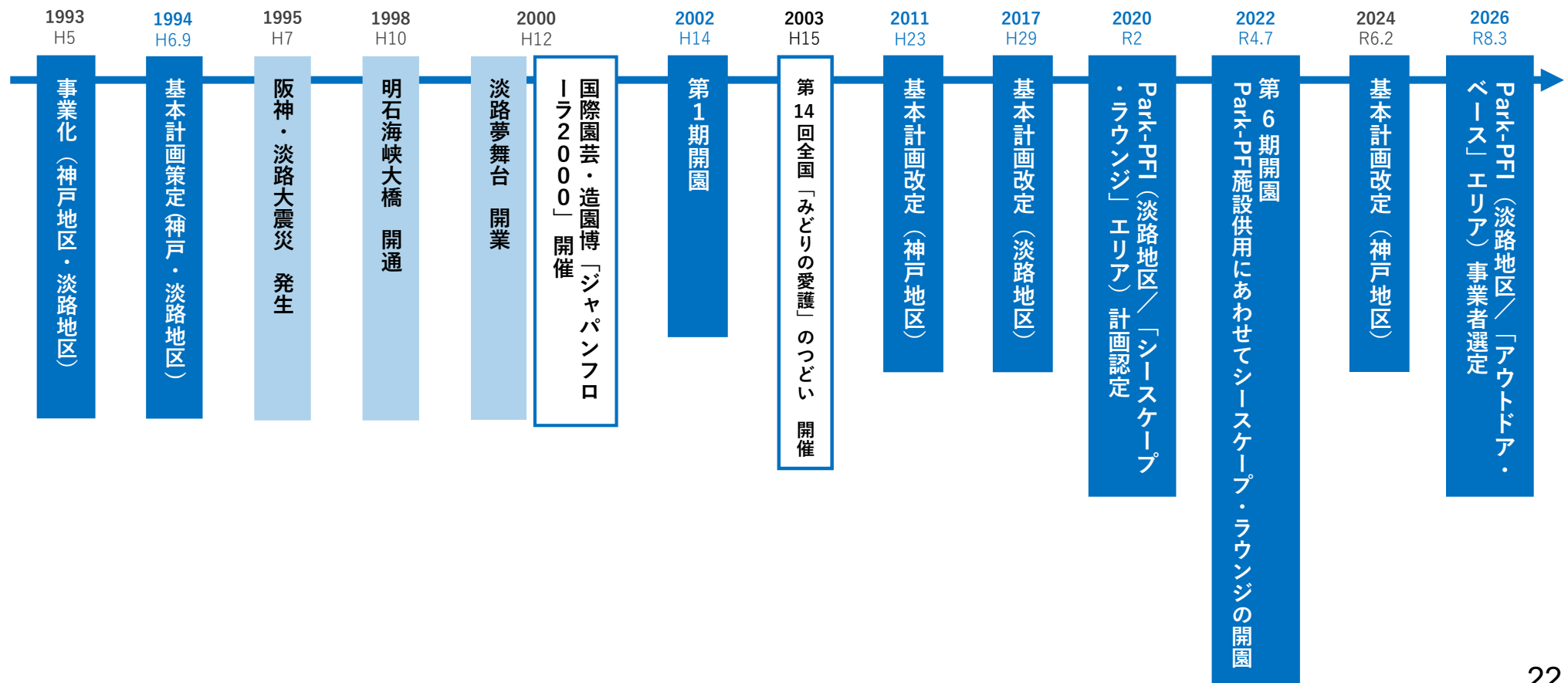
3 - 1 公園整備の経緯と上位計画

淡路地区の歩み

第1回会議資料再掲

(一部修正)

- 平成3年度に国営明石海峡公園（仮称）整備促進協議会が発足し、平成5年度に2地区を事業化。
- 平成6年度に公園基本計画（2地区）を策定し、淡路地区は平成6年度に都市計画決定及び平成7年度に都市計画事業承認。
- 平成12年度に国際園芸・造園博が開催され、平成14年度に淡路地区第1期開園し第8期まで順次開園。
- 令和2年度に国営公園初となるPark-PFI認定（「シースケープ・ラウンジ」エリア）を行い、令和7年度には「アウトドア・ベース」エリアのPark-PFI事業者を選定。



淡路地区の整備経緯

第1回会議資料再掲

- 淡路地区は「**海辺の園遊空間**」をコンセプトに、関西国際空港等のために約1億 m^3 もの土取りがなされた大規模跡地の自然を回復する整備が進められている。
- 土取り跡地を活用した全国的にも特徴的な自然再生事業である。



1994年12月

土取りにより形成された大規模跡地

淡路地区の歴史（淡路花博の開催）

第1回会議資料再掲

- ・ 「海辺の園遊空間」をコンセプトに国際的な観光拠点となる公園として平成6年より整備。
- ・ 平成12年に国際園芸・造園博「**ジャパンフローラ2000（淡路花博）**」の会場となり、平成14年3月に第1期開園をした。



土取り場や淡路花博会場としての歴史の継承

- ・ 淡路花博開催当時の施設配置や樹木の動線誘導等が一部、現存している。
- ・ 淡路花博の「人と自然の共生」の理念を継承・発展させる淡路花博記念イベント「花みどりフェア」を定期的に開催。

■ ジャパンフローラ2000（淡路花博）会場基本計画図

④ ジャパンフローラ 2000 (国際造園・園芸博) の開催

テーマ 人と自然のコミュニケーション

会場は、自然環境の創造的回復を目指し、あわせて、国際的な交流ステージとして整備する「夢舞台ゾーン」と、花と緑と水と人が交流する「フローラゾーン」、展示館、物販施設等を集中的に配置し、人と人が交流する「にぎわいゾーン」の3つのゾーンで構成する。

AIPHのガイドラインに基づき、全体の博覧会場面積96haのうち、有料区域は、56ha（基準25ha）、海外出展ゾーンは、7,800㎡（基準7,500㎡）とする。

■ 夢舞台ゾーン [約28ha]

ダイナミックな斜面地を活用し、花の夢、水の夢、海の夢、山の夢、さらには、人々が持つ夢など、さまざまな夢が重なる壮大な施設群で構成する。多くの来場者が多様に行き交い、交流する博覧会的空間とするため、各種の催事や花緑の展示、さらには、コンベンションなどを計画的に開催する。

■ フローラゾーン [約29ha]

「花と緑と水」をコンセプトに、テラスガーデンを展示し、花の中海やその周辺に、淡路・虹の花壇を、また、海辺には、花の大草原を展開する。特に、夢舞台とのコントラストを重視し、それぞれの場からの眺望を演出する。

■ にぎわいゾーン [約12ha]

展示館やレストラン、バザールを集中的に配置し、「賑わい」のある花と緑の街とする。さらに、海沿いには、子供やファミリー向けの遊園施設を配置する。

■ その他

輸送交通関連施設として、バスターミナル及び駐車場、また、大型船舶が利用可能な淡路交流の翼港などの施設を整備する。

● 性 格

国際園芸協会 (AIPH) が承認する園芸と造園の国際博覧会

● 会 期

2000年(平成12年)3月18日(土)～9月17日(日)の184日間

● 会 場

兵庫県淡路島
主会場は国営明石海峡公園(淡路地区)、県立淡路島公園、淡路夢舞台など約96% (淡路町・東浦町)

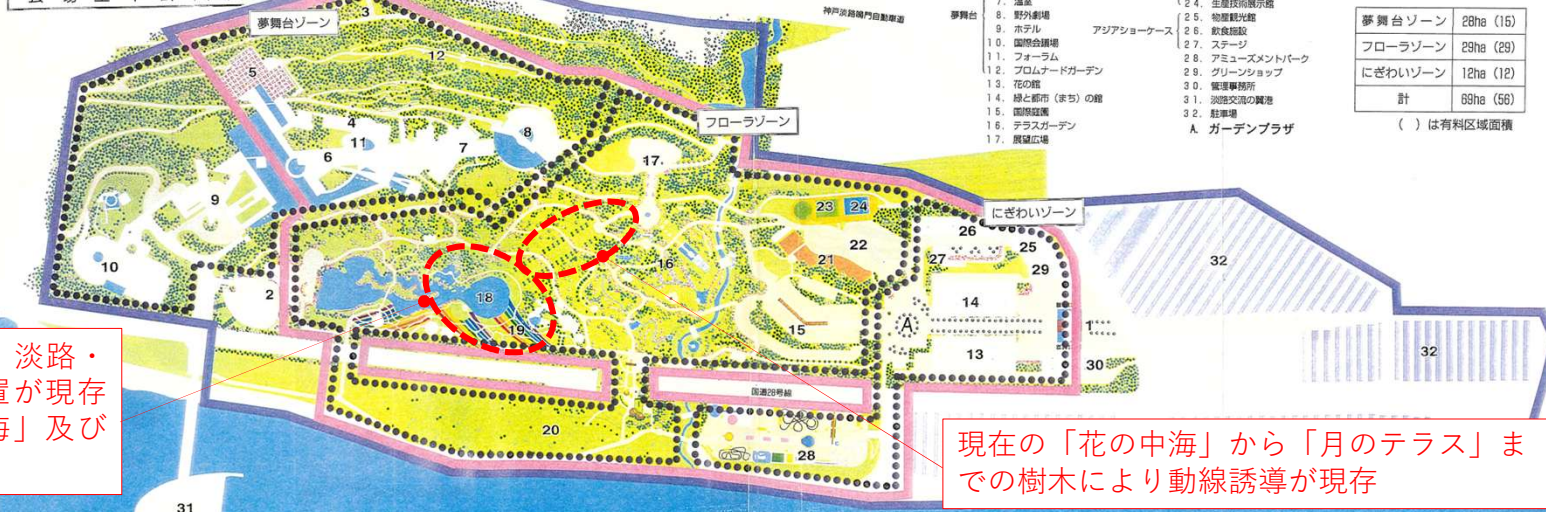
● 提唱・企画

国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000日本委員会」

● 主 催

財団法人 夢の架け橋記念事業協会

会場基本計画図



18. 花の中海、19. 淡路・虹の花壇の施設配置が現存（現在の「花の中海」及び「大地の虹」）

現在の「花の中海」から「月のテラス」までの樹木により動線誘導が現存

国営明石海峡公園基本計画

■国営明石海峡公園の基本理念・基本指標

■基本理念：整備の目的（～のために）

自然と人との共生、人と人との交流

■基本指標：整備の特色（～をめざして）

グリーンネクサス Green Nexus

自然を象徴する“グリーン”をシンボルとして、自然と人、人と人が生命という喜びを共有しながら、より親密な関係“ネクサス”を形成することで実現される、次世代の環境のあるべき姿を象徴するために造語されたキーワード。

■淡路地区の整備方針

- 淡路地区は、国際的な交流の場としての環境、リゾート環境の中で、周辺との役割分担を図りながら大規模な土取り跡地の自然を回復し、新たな園遊空間の創出を図ることを基本とする。
- 明石海峡大橋を都市の日常から抜け出すゲートウェイとして、気分を“リセット”して、ゆっくりとした贅沢な時間を約束する淡路島体験へと誘う拠点となる公園を目指す。
- 瀬戸内海の広域観光の周遊ルートにおいて、淡路島の魅力を国内外に発信する公園を目指して、インバウンドを含めた広域的な観光客の取り込みに向けた公園づくりを展開していく。

- ① 自然回復と望ましい環境形成を目指す。
- ② 「花」「海」「島」を活かしたランドスケープと園遊空間の場づくりを図る。
- ③ 21世紀の快適な都市づくりとライフスタイルに新たな提案を行う。
- ④ 周辺との連携で核となる整備を図る。

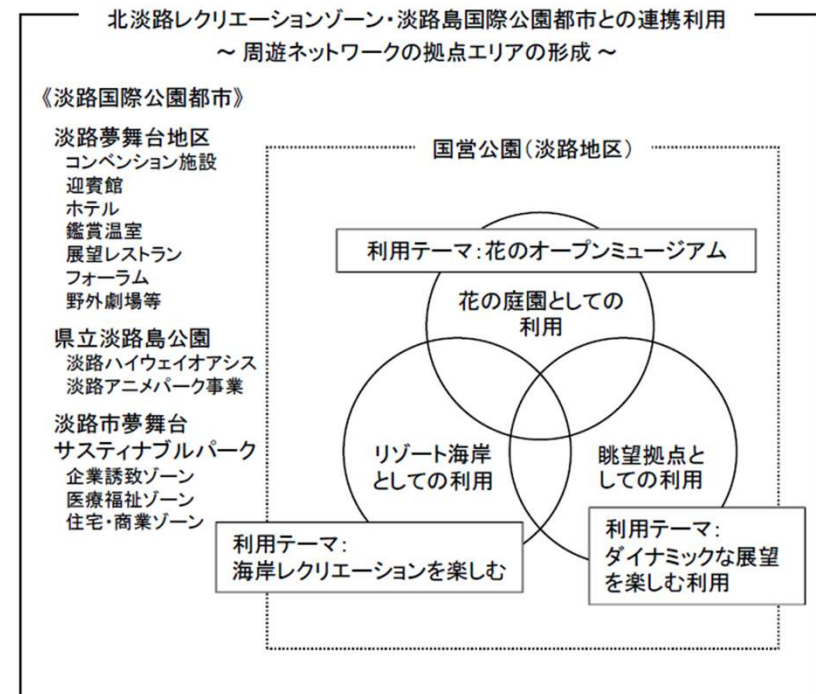
■淡路地区の利用計画

【淡路地区の利用構造】

- 淡路地区の利用は、明石海峡大橋に代表される観光レクリエーションや、北淡路地域全体のレクリエーションゾーン形成のネットワークの中での中核的な利用を図る。
- 特に、北淡路地域には花みどりをテーマとする観光レクリエーション施設が集積しており、それらの施設の連携により、地域が一体となって充実した活力あるサービスを提供するエリアイメージを形成していく。
- 淡路地区周辺については、隣接する淡路夢舞台や県立淡路島公園、淡路市夢舞台サステイナブルパークからなる淡路島国際公園都市との密接・不可分な連携利用を進めていく。

【淡路地区の利用特性】

- そうした利用構造の上に国際的な舞台の中のレクリエーションゾーンとして、隣接地区や周辺地域との役割分担の中で、公園都市の中の大規模なオープンスペース的な利用機能を基本として、下図の3つのテーマ性を持った利用を設定し、特色のある利用を図る。



国営明石海峡公園基本計画の平面図



第3章 将来ビジョンの検討における視点

3 - 2 国営公園として求められる役割

国営公園として求められる役割

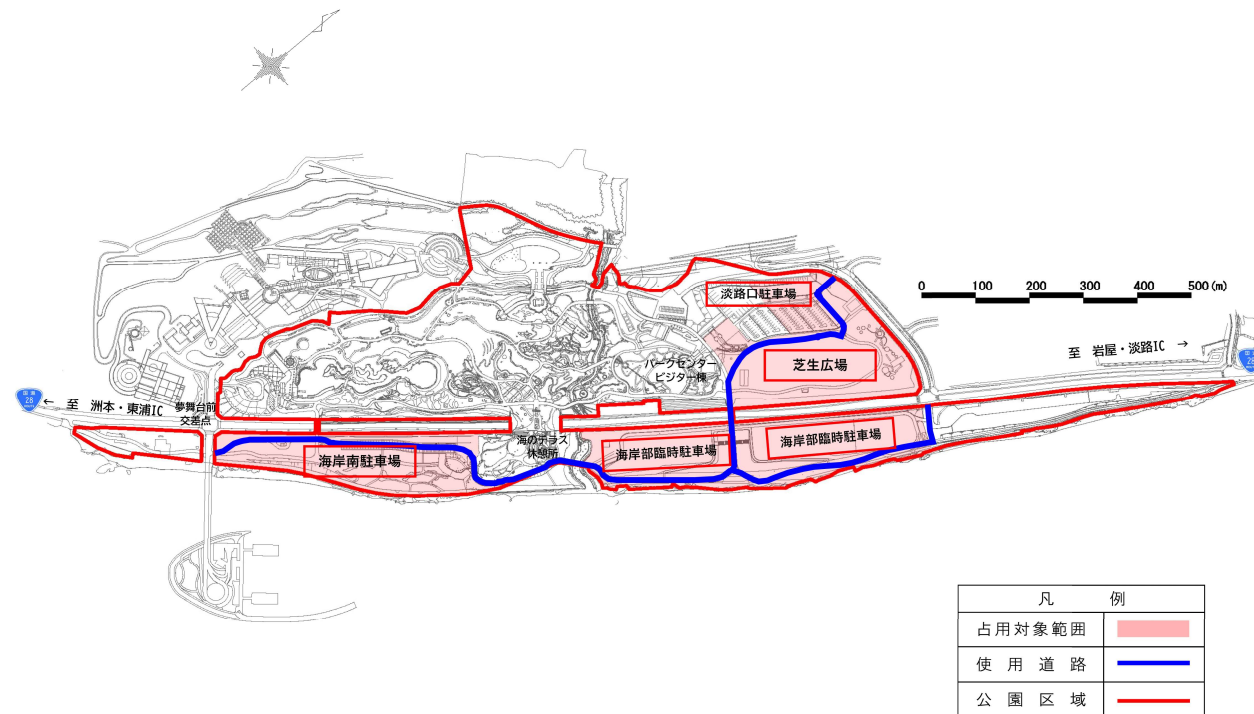
- 近年のトレンドや自治体の計画等（社会資本重点計画、都市公園新時代、兵庫県都市公園の整備管理運営計画、淡路総合計画など）から、国営公園（都市公園全般）として求められる役割を5つ整理。
- 国営公園として、これらの役割に加え、全国の都市公園の先導的なモデルとなる「先進性」や、一般の都市公園では対応が難しい広域的・大規模なレクリエーション需要に応える「広域性」も求められる。

国営公園 に求められる 役割	ストック効果に 基づく項目 （都市公園のス tock効果向上に 向けた手引きよ り）	国営明石海峡公園の計画等		近年のトレンド、自治体の計画等			
		国営明石海峡公園 基本計画 （令和6年2月）	整備・管理運営 プログラム （令和3年6月）	第6次社会資本整備重点計画		都市公園新時代 ～公園が活きる、人がつ ながる、まちが変わる～ （令和4年10月）	兵庫県立都市公園の整 備・管理運営基本計画 （ひょうごパークマネ ジメントプラン） 2026-2035より
				国土交通省の 方向性	社会情勢の変化	都市公園を取り巻く 状況の変化	第2次淡路市総合計画 後期基本計画 （令和4～8年度）
1. 防災・安全	①防災性向上効 果・安心安全の 確保		●広域防災拠点として の備え ●安全・安心な公園利 用の推進	●暮らしと経済の礎 となる防災・減災、 国土強靱化 ●新技術・DXによる インフラの価値向上	●激甚化・頻発化 する自然災害 ●インフラ老朽化 の更なる進行	●防災・減災、バリアフ リー、老朽化対策、防犯、 暑熱対策等の観点公園に おける安全・安心な利用 の確保	●老朽化対策や計画 的な改修 ●安心安全な場とし ての充実 ●快適に利用できる 環境づくり
2. 環境・景観	②環境維持・改 善効果 ④景観形成効果	●国際交流にふさわし い庭園空間づくり ●土取り跡地の自然回 復（重複）	●高度な植栽技術、デ ザインの工夫による季 節の花修景の充実化 ●再生可能エネルギー の活用 ●土取り跡地の自然回 復（重複）	●2050年カーボン ニュートラルの実現 ●自然と共生する社 会の実現	●環境分野におけ る世界的な潮流へ の対応	●持続可能な都市を支 えるグリーンインフラと なる公園 ●地球環境問題の新た な潮流への対応（自然を 活用した解決（NbS）／ ネイチャーポジティブ）	●気候変動への対応 ●生物多様性確保 ●公園緑地の充実 ●自然環境・景観の 保全・共生
3. 子育て・教育	③健康・レクリ エーション空間 提供効果 ⑥子育て、教育 効果	●環境への理解を深め る場	●環境学習・園芸福祉 の場（重複）	●包摂的な共生社会 に向けた地域づくり と豊かで快適な生活 環境（重複）	●人口減少・急速 な少子高齢化がも たらす地域の危機 ●あらゆる人々が 充実した暮らしを 送ることができる 環境の必要性		●こどもの健やかな 成長の促進
4. 健康・福祉	③健康・レクリ エーション空間 提供効果	●レクリエーション ゾーンの形成 ●ダイバーシティ＆イ ンクルージョンに配慮 した公園づくり	●環境学習・園芸福祉 の場（重複）	●包摂的な共生社会 に向けた地域づくり と豊かで快適な生活 環境（重複）		●インクルーシブデザ インに配慮した公園の空間 づくり	●心身の健康の増進 ●健康づくりの推進 ●スポーツ・レクリ エーション機会の充 実
5. 観光・経済・交流	⑤文化伝承効果 ⑦コミュニティ 形成効果 ⑧観光振興効果 ⑨経済活性化効 果	●瀬戸内海の広域観光 周遊ルートにおいて広 域的な観光客を取り込 む公園 ●地域連携	●多様なイベント開催 による地域活性化、交 流促進 ●民間活力の導入によ る、魅力向上 ●多様な主体の参画、 地域との連携の促進	●地域経済の核とな る集積づくりと広域 連携 ●官民の連携・協働 ●地域の住民など多 様な関係者の参画	●地域における暮 らし方や働き方の 多様化	●社会課題解決に向けた 活動実践の場となる公園 ●Park-PFI制度の創設 ●人と人とのリアルな交 流、イノベーションを生 み出す場となる公園 ●心豊かな生活を支える サードプレイスとなる公 園	●多様な過ごし方の 実現 ●地域連携の推進と 地域文化の保全 ●広域の観光・交流 拠点 ●市民交流の推進

1. 防災・安全①

第1回会議資料再掲

- ・ 淡路地区は、兵庫県地域防災計画（令和6年11月版）において広域防災拠点として設定されている。
- ・ 平成27年3月1日には、自衛隊が迅速かつ適切な災害派遣活動を行う広域防災拠点として淡路地区を活用することを目的とした「**災害時等の国営公園の占用に関する協定**」等を締結した。



自衛隊との協定に基づく占用対象範囲及び使用道路



ヘリ発着訓練



協定締結式

1. 防災・安全②

- 開園から**20年以上**が経過し、施設・設備の老朽化等の進行やマツ枯れや倒木も発生。
- 長寿命化計画の下、建物点検、遊具定期点検、施設設備等不具合修繕報告等を踏まえた修繕やマツ枯れ等への対応を実施している。

■老朽化施設・設備



水の樹



水の岩戸

■枯損木対応



枯損木の伐採①



【夢っこランド】ドームテント剥がれ



【あじさいエリアデッキ】腐朽



枯損木の伐採②



【ビジター棟】雨漏り



平成26年度台風11号被害状況



平成30年度台風20号被害状況

台風によるポプラの倒木

2. 景観・環境

第1回会議資料再掲

(一部修正)

- ・ 昭和 30 年代後半から平成 6 年まで、関西ベイエリアの埋立て用土砂として約 1 億 m^3 が搬出された岩盤剥き出しの土地に、公園事業によりなだらかな地形や人工池をつくり、約 340 種類 8 万本を超える植物を植栽。
- ・ 年間を通じ立体的で多品種の花壇デザインによる美しい花の景色を創出し、花の島・淡路島を代表する観光の中心的な施設となっている。今では樹木が生長し、失われた緑が美しく回復している。
- ・ 国営明石海峡公園を含むエリアは、淡路市の脱炭素先行地域として選定されており、淡路地区の駐車場では太陽光発電施設（カーポート）が稼働するなど、再生可能エネルギーの導入が進められている。
- ・ 雨水循環システムにより、雨水を園内の水景施設に活用している。



1994年 土取り跡地



花修景



太陽光発電施設



空のテラス

3. 子育て・教育

第1回会議資料再掲

- ・ 淡路地区は、広大な敷地内に大規模遊具やスワンボート他、多様な遊びの場を提供しているだけでなく、地元大学やボランティア団体等と連携した自然豊かな公園の特性を活かした**体験学習教室**のほか、博物館と協力した**移動博物館**など多様な子供向け体験教室を実施し、子供たちが自然豊かな環境で遊び、学べる場を提供している。
- ・ 兵庫県立淡路景観園芸学校・兵庫県立大学大学院及び兵庫県立人と自然の博物館と**包括連携協定**を締結し、研究・人材育成や生態系保全に関する取組を推進している。



スワンボート、大規模遊具



移動博物館



じゃぶじゃぶ池



親子海辺のいきもの観察会

4. 健康・福祉

- ・ 淡路島ロングライドの開催を通じて、サイクルツーリズムの推進や健康増進、多様な交流機会の創出に寄与している。
- ・ 大学や海峡フレンズ（ボランティア団体）と連携し、園芸療法課程の実践プログラム、障がい者が植物に触れる福祉活動の場などを提供している。
- ・ 健康促進プログラム「ミズノ流走り方教室」等を開催し、幅広い世代の健康づくりを支援している。



淡路島ロングライドイベント

画像出典：兵庫県HP（最終閲覧日2026年7月30日）

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/awk01/longride/images/kaikyooohashi.png>



園芸療法プログラム



ミズノ流走り方教室



レイズドベッドでの植栽体験



車いすで通行可能な
ユニバーサル園路

5. 観光・経済・交流①

第1回会議資料再掲

- ・ 淡路地区園内では、広い芝生広場や駐車場を活かし、主催・共催・持込により多種多様なイベントが開催されるとともに、利用者に対して多様な魅力を提供することで、**広域レクリエーション拠点の創出**や**地域経済の活性化**、**地域コミュニティの形成**にも貢献している。
- ・ 事務所や管理者が企画するイベントに加え、団体や民間事業者等による持ち込みイベントも活発に開催されている。多様な主体の活動を受け入れることで、公園の魅力向上とにぎわい創出につなげている。

■令和2年度以降の主な持ち込みイベント

年度	持ち込みイベント内容
令和2年度	ひょうごフードマルシェ、暮らしフェスタ、オリエンテーリング、アワイチサイクルフェスタ 等
令和3年度	ひょうごフードマルシェ、キャンプる！（トークショー&キャンプ用品展示）、島スイーツガーデン、花とみどりで健康になろう（ワークショップ）、東京キャッチボールクラブin淡路島、ロハスフェスタ淡路島 等
令和4年度	淡路市夏まつり、FREEDOM 青空 2022 淡路島（野外コンサート）、UNDOKAI World Cup（スポーツイベント） 等
令和5年度	淡路市夏まつり、UNDOKAI World Cup（スポーツイベント）、淡路島Z 祭withアクアイグニス淡路島（バイクイベント） 等
令和6年度	淡路市夏まつり、UNDOKAI World Cup（スポーツイベント）、さすていなぶるFes.×2、淡路島ロングライド150-SPRING 2026-（スポーツイベント） 等
令和7年度	淡路花みどりフェア2025、淡路市夏まつり、UNDOKAI World Cup（スポーツイベント）、Supreme Sauna “EDEN” // WINTER HARMX（アウトドアサウナイベント） 等



淡路花みどりフェア2025



淡路市夏まつり



UNDOKAI World Cup

5. 観光・経済・交流②

第1回会議資料再掲

- 平成30年度にPark-PFI事業者を公募し、令和2年度に国営公園では全国で初のPark-PFI事業計画を認定した。
- 官民連携により、民間事業者（認定計画提出者）が収益施設として複合温浴施設、カフェ・レストラン及び施設周辺の広場等を、公園管理者がプロムナードや駐車場（186台）等を整備し、令和4年7月「シースケープ・ラウンジ」エリア（約2.7ha）とPark-PFI施設「アクアイグニス淡路島」の供用を開始した。
- 令和8年3月、海岸ゾーン「アウトドア・ベース」エリア（民活対象：約5.5ha）の第2期Park-PFI事業において、質の高いアウトドアライフやスポーツアクティビティを楽しむエリアの整備・管理運営を担う事業者として、パソナグループが選定された。



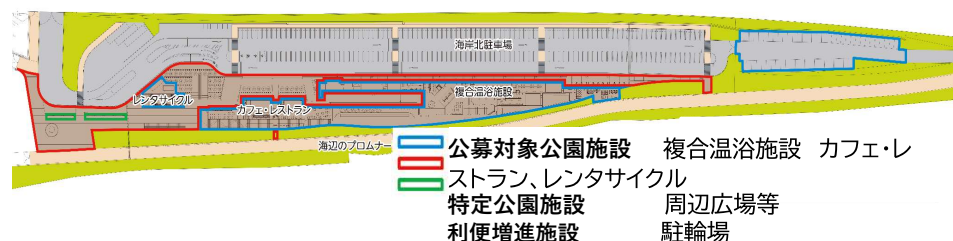
位置図



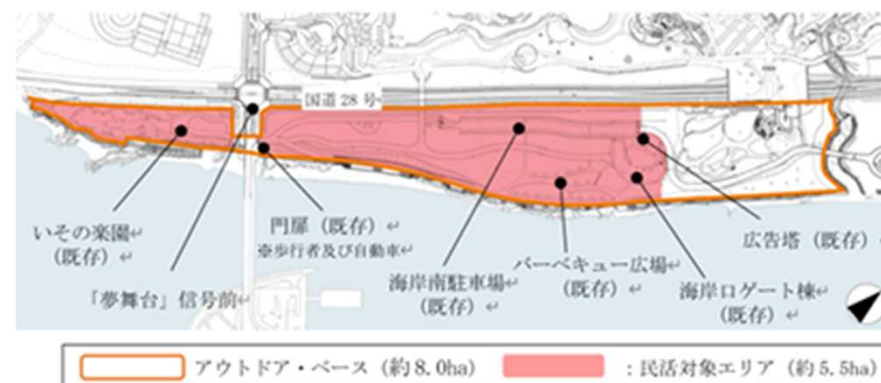
アクアイグニス淡路島 外観



アクアイグニス淡路島 内観



海岸ゾーン「シースケープ・ラウンジ」(約2.7ha)平面図



海岸ゾーン「アウトドア・ベース」(民活対象：約5.5ha)平面図

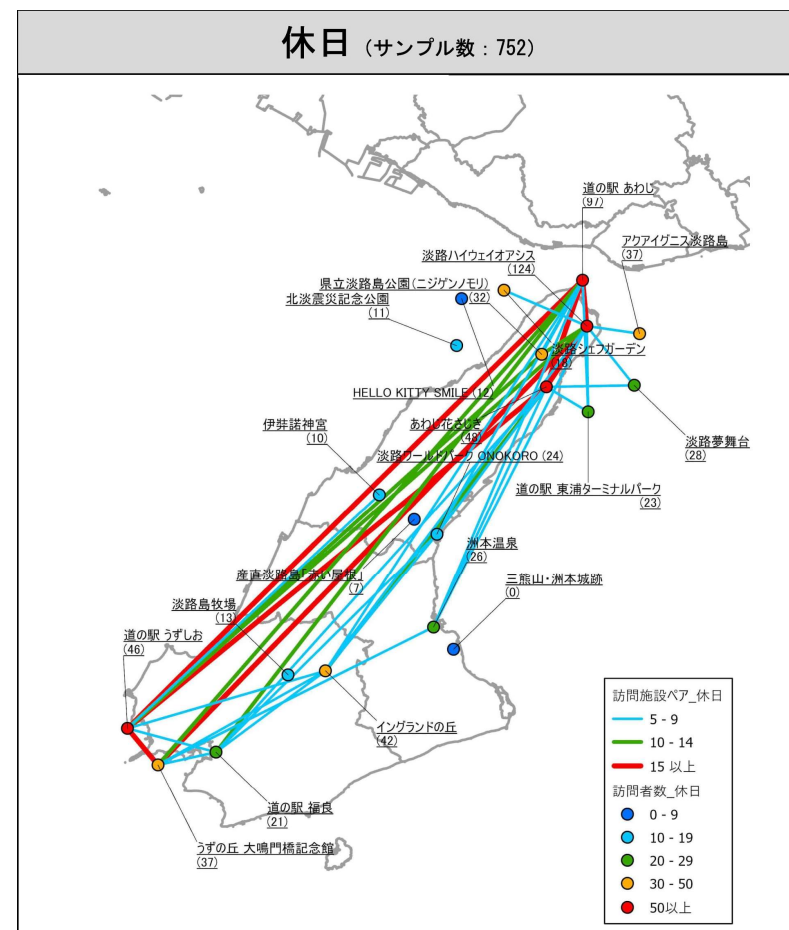
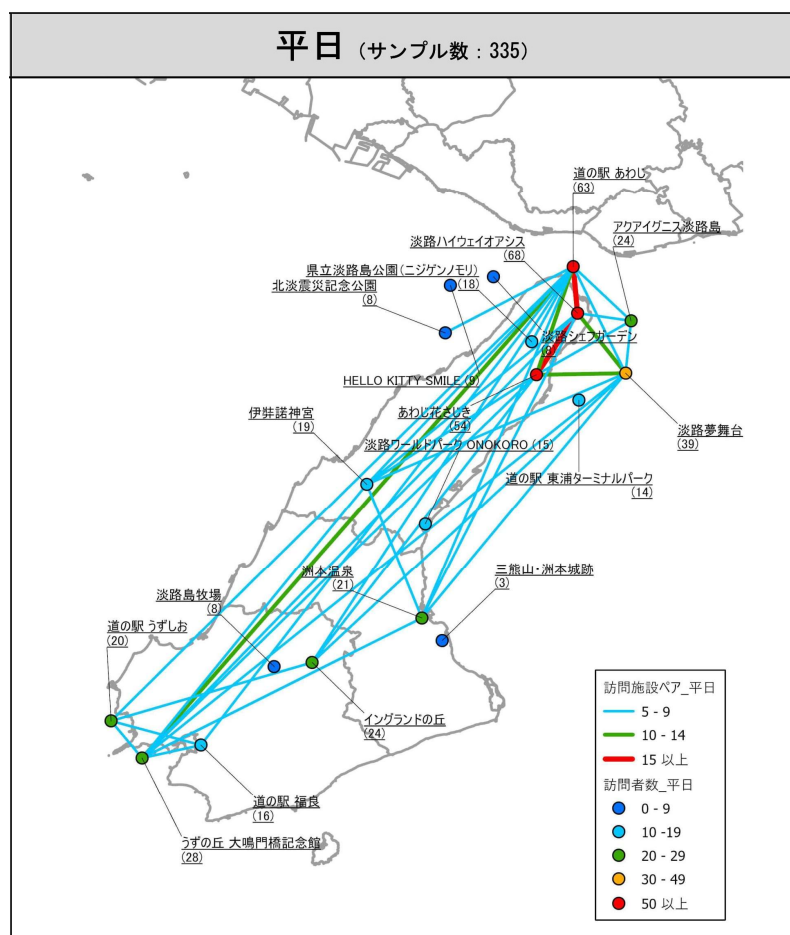
5. 観光・経済・交流③

第1回会議資料再掲

- 「公園とセットで周遊されている施設」の調査結果から、公園を訪れた利用者の多くは淡路島内の他の施設にも立ち寄っていることから、淡路島の観光振興に貢献していると考えられる。
- 「平日」は、「道の駅あわじ」「淡路ハイウェイオアシス」「あわじ花さじき」などの**淡路島北部のみを**、「休日」には、公園近隣の施設から「道の駅うずしお」などの**南あわじ地域まで周遊**。

※点の色は島内施設の来訪者数を示しており、線は公園とセットで来訪された2施設間の組み合わせの数を表している

※青から赤にいくに従って結びつきが多く、多数の施設間で活発に回遊が発生しているといえる



出典：公園利用者の島内周遊状況（R6年度）

第3章 将来ビジョンの検討における視点

3 - 3 利用者の動向・ニーズ

来訪者属性と満足度（利用実態調査より）

■来訪者属性

第1回会議資料再掲

- ✓ 年齢：成人利用者の年齢層は「30～39歳」が最も多く、次いで「19～29歳」「40～49歳」。
- ✓ グループ構成：「家族利用」が最多。近年は全体の5～6割以上。
- ✓ 居住地：直近3年間では兵庫県が約4割、大阪府が約3割。
- ✓ 来訪手段：公園利用者の7～9割が自家用車を利用。

■来訪者の満足度

- ✓ 過去10年間における公園を利用した総合的な満足度（満足＋やや満足＋普通）は、9割を超えている。
- ✓ 満足度調査では、「落ち着き・雰囲気・景色」「自然の豊かさ」「散策・憩いの場」「緑の量・花の演出」「子供の遊び場」などの項目が上位を占めている。

* 利用実態調査結果（平成26年度～令和5年度）

園内の周遊状況（令和6年度利用実態調査より）

■家族利用（19～49歳）

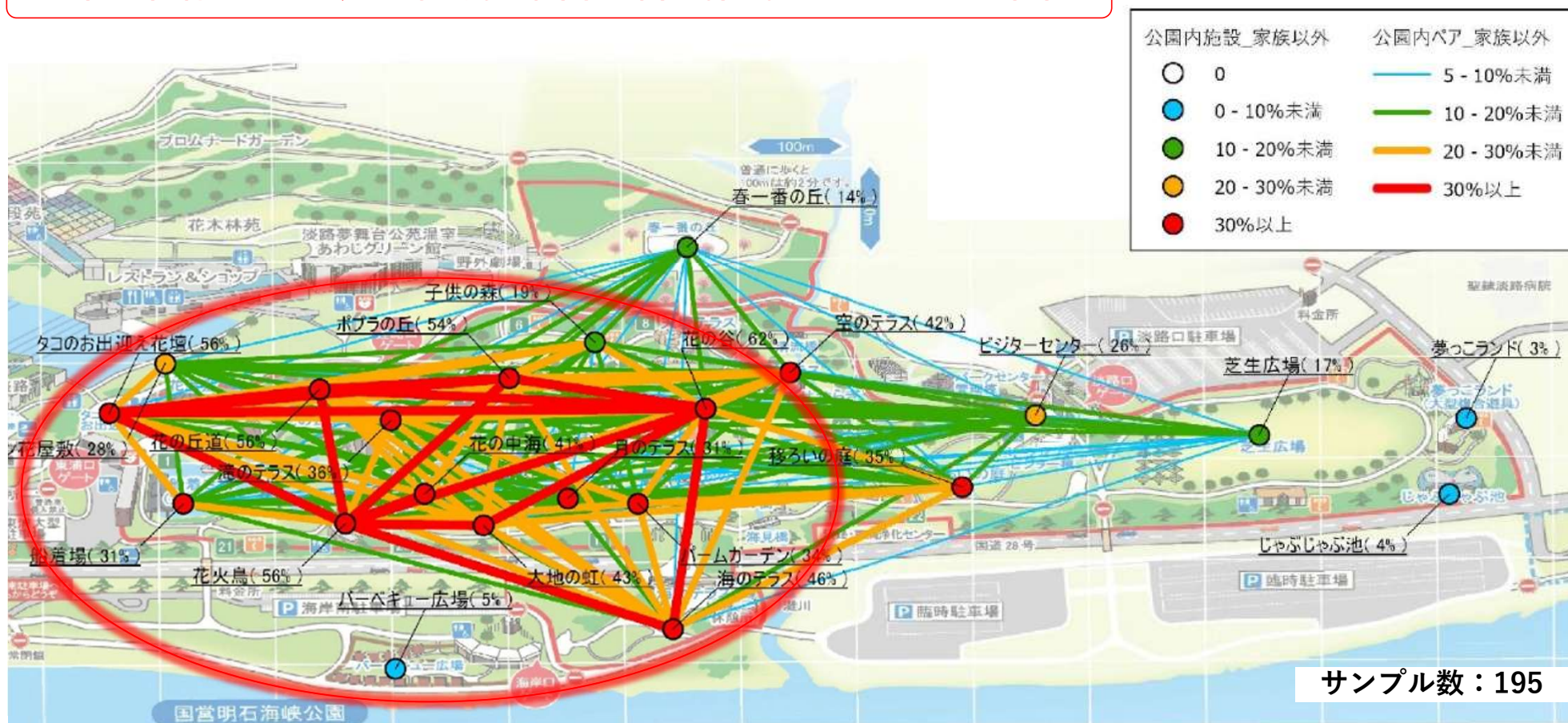
- ・ 家族利用の中でも、ファミリー層（19～49歳）の園内の周遊状況をみると、北部の「夢っこランド」「芝生広場」「じゃぶじゃぶ池」の利用が多い。来園目的としては、「子どもを遊ばせる」が多い。
- ・ 「この公園が主な目的地の1つであった」という人が多い。
- ・ 当該層（日帰り客）の園内平均滞在時間は3.03時間で、家族以外（友人・知人／夫婦／カップル／一人）の1.73時間よりも滞在時間が長い。



■家族以外（友人・知人／夫婦／カップル／一人）

- 家族以外の園内の周遊状況を見ると、北部の回遊は見られず、中央部から南部にかけて施設間の関係性が強い。来園目的としては、「風景を楽しむ」が多い。
- 「この公園が主な目的地の1つであった」と「ほかの目的地のついでに立ち寄った」という人が同程度。
- 当該層（日帰り客）の園内平均滞在時間は1.73時間で、家族利用（19～39歳以外も含む）の2.79時間よりも滞在時間が短い。

⇒利用者層によって、目的・周遊範囲・滞在時間等に大きな違いが存在



出典：利用実態調査結果（R6年度-秋季・冬季）／シースケープラウンジエリアを除く

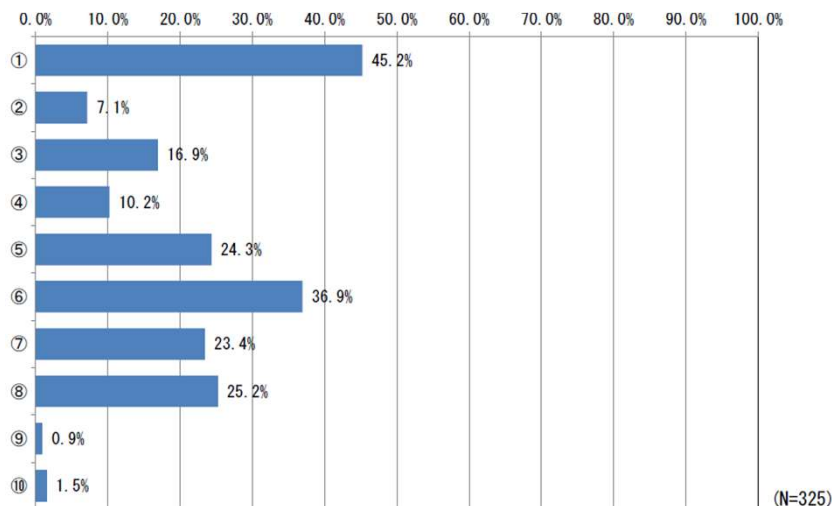
参加したいイベント

- 「来園者の参加したいイベントは、「食のイベント」、「花に関するイベント」、「淡路花博や公園の歴史に関するイベント」の割合が高かった。
- 年齢別の参加したいイベントの割合は、「～29歳」「30～59歳」とともに「食のイベント」の割合が高く、「60歳以上」は「花に関するイベント」の割合が高かった。

■来園者の参加したいイベント（全体）

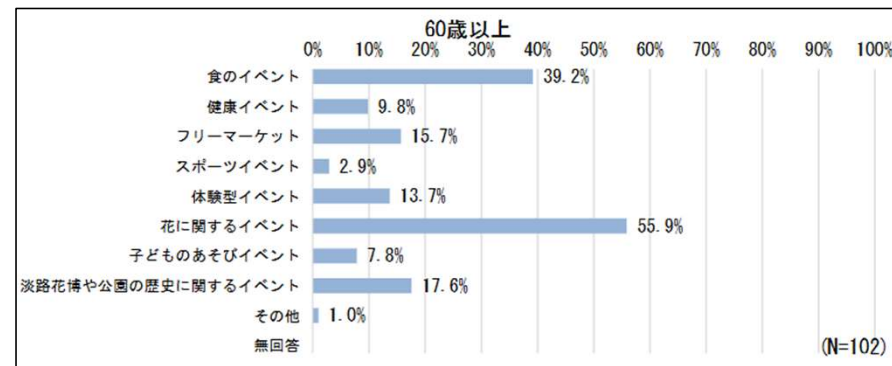
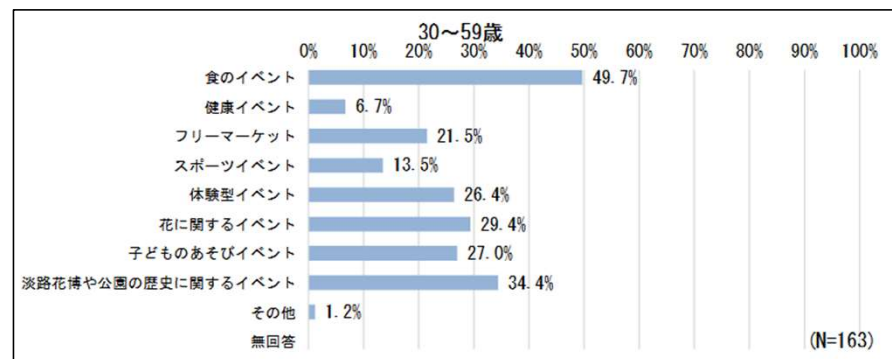
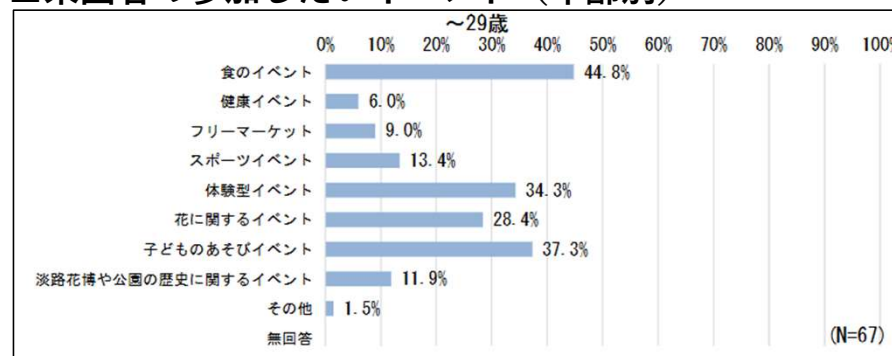
参加したいイベント	回答数
① 食のイベント（マルシェ、フードフェス等）	147
② 健康イベント（ヨガ、体操教室等）	23
③ フリーマーケット	55
④ スポーツイベント（フットサル、ジョギング大会等）	33
⑤ 体験型イベント（スタンプラリー、謎解き等）	79
⑥ 花に関するイベント（フラワーガイド、クラフト体験等）	120
⑦ 子どものあそびイベント（子どもまつり、昔遊び等）	76
⑧ 淡路花博や公園の歴史に関するイベント（当時の展示紹介、写真展等）	82
⑨ その他	3
⑩ 無回答	5

（複数回答）



出典：利用実態調査結果（R8年度-春季）

■来園者の参加したいイベント（年齢別）



公園利用時の情報源

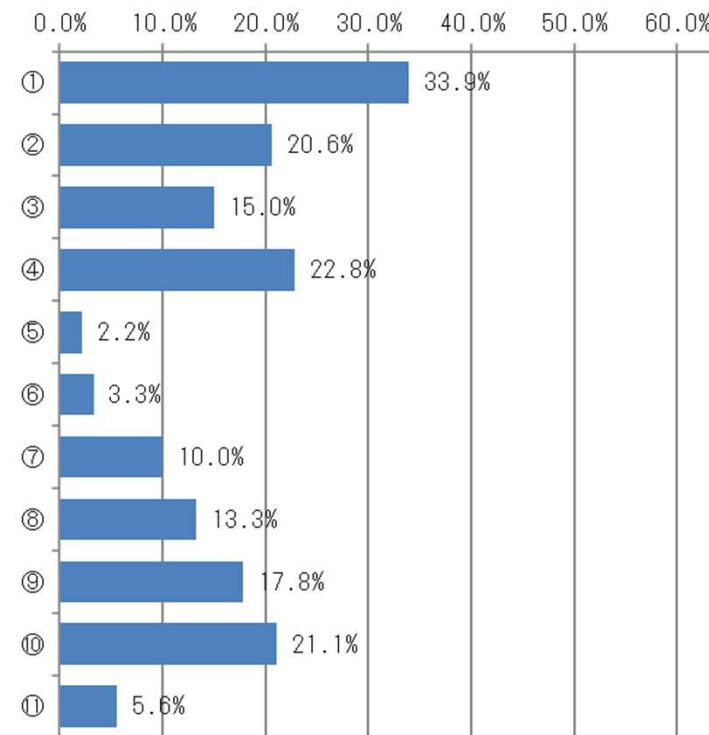
(一部修正)

- 公園利用時の情報源としては、「人から聞いて」が最も多く、次いで「市町村等の広報誌」、「テレビ」、「SNS」となっており、特にテレビやSNSは広域的な情報発信媒体として来園のきっかけづくりに重要な役割を担っている。
- しかし、淡路地区におけるSNS活用はFacebook、X、Instagramによる発信にとどまり、フォロワー数も8千人程度であることから、近隣の国営公園（例：国営讃岐まんのう公園Instagramフォロワー1.5万人）と比較して**情報発信力や認知度の向上が課題**となっている。

■公園利用時の情報源

本公園の情報をどこで知りましたか？（複数回答）

情報源		回答数
①	人から聞いて	61
②	市町村等の広報誌	37
③	雑誌・情報誌	27
④	テレビ	41
⑤	ラジオ	4
⑥	ポスター	6
⑦	チラシ・パンフレット	18
⑧	本施設のホームページ	24
⑨	その他のホームページ（Googleなどでの検索、旅行情報サイトなど）	32
⑩	SNS（インスタ、X、Facebookなど）	38
⑪	その他	10



出典：国営明石海峡公園利用実態調査（R7年度）

島外来訪者にとっての魅力、ギャップ、改善点

第1回会議資料再掲

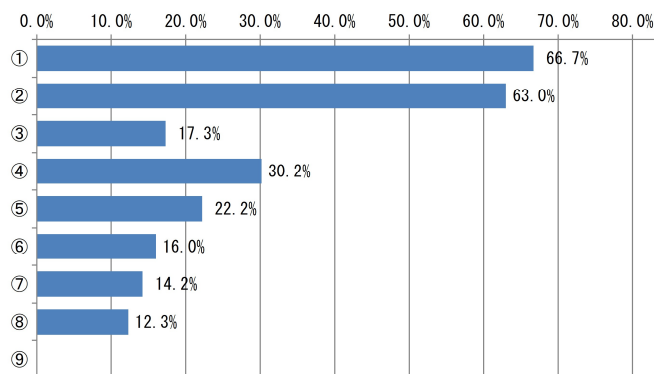
- 来訪者にとっての公園の魅力は「自然景観」「海を望める展望スポット」。
- 公園利用時に感じたギャップ（来園前の期待に対して十分でないと感じた点）は「飲食施設」「お土産販売施設」「自然景観」。
- 公園利用における改善点は、「施設更新」「休憩スペース」「園内移動サービス」などの回答があった。

■魅力

本公園の魅力と思うことを教えてください。

公園利用におけるニーズ		回答数
①	自然や景観	108
②	海を望める展望スポット	102
③	水景施設（滝、池など）	28
④	季節ごとの花	49
⑤	広大な芝生広場	36
⑥	子ども向け遊具	26
⑦	お土産販売施設	23
⑧	園内の飲食施設	20
⑨	その他	0

（複数回答）



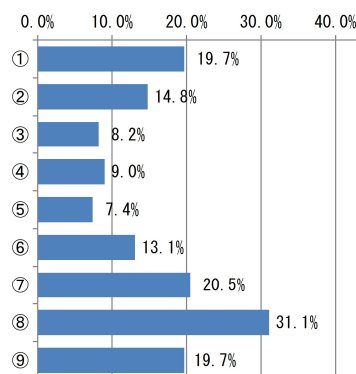
(N=163)

■ギャップ

本公園を利用して、来園前の期待に対して、実際の内容が十分でないと感じた点があれば教えてください。

利用時に感じたギャップ		回答数
①	自然や景観	24
②	海を望める展望スポット	18
③	水景施設（滝、池など）	10
④	季節ごとの花	11
⑤	広大な芝生広場	9
⑥	子ども向け遊具	16
⑦	お土産販売施設	25
⑧	園内の飲食施設	38
⑨	その他	24

（複数回答）



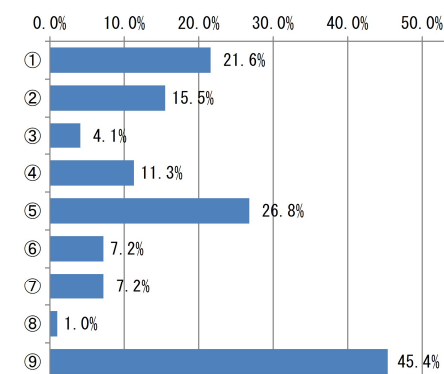
(N=122)

■改善点

本公園に改善して欲しいことを教えてください。

改善点		回答数
①	施設・設備（トイレ・ベンチなど）を新しいものに更新してほしい	21
②	園内移動サービスを充実してほしい	15
③	ベビーカーや車いすでも快適に利用できる環境を整備してほしい	4
④	園内案内・サインをわかりやすく改善してほしい	11
⑤	休憩スペース（日陰、ベンチ、東屋など）を増やしてほしい	26
⑥	樹木や植栽を適切に整備し景観を良くしてほしい	7
⑦	ペットと一緒に楽しめるエリアやサービスを増やしてほしい	7
⑧	その他	1
⑨	とくにない	44

（複数回答）



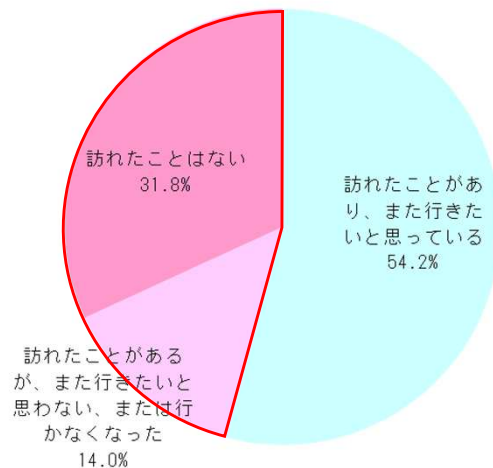
(N=97)

国営明石海峡公園を利用しない理由・改善点

- 公園の来訪実績については、5割以上が「来訪実績があり、再来訪意向がある」と回答。
- 公園に来たことがない人や、訪れたことはあるが、また行きたいと思わない方に対するアンケート結果では、来園しない理由は「とくにない」が最も多いものの、「公園に関する情報が少ない／分かりにくい」「入園料がかかる」といった意見もみられた。

第1回会議資料再掲

■公園への来訪実績

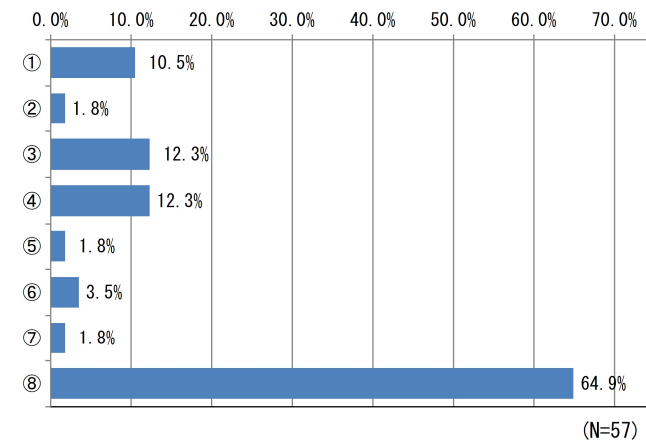


■公園を利用していない理由

本公園をこれまで利用されていない理由を教えてください。

公園未利用理由		回答数
①	最近公園を知った	6
②	公園までの道や駐車場が混雑する	1
③	公園に関する情報が少ない/分かりにくい	7
④	入園料がかかる	7
⑤	屋内施設が少なく、天候に左右されやすい	1
⑥	魅力的な施設やイベントが少ない	2
⑦	その他	1
⑧	とくに理由はない	37

(複数回答)

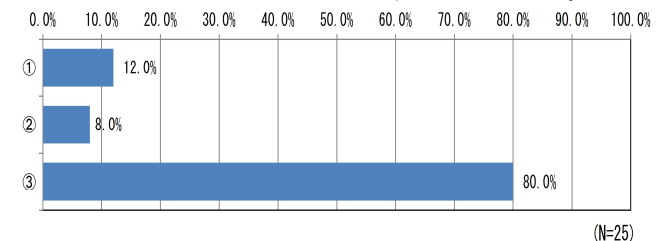


■公園に行きたいと思わない理由、行かなくなった理由

本公園に行きたいと思わない理由、または行かなくなった理由として当てはまるものを教えてください。

離脱要因		回答数
①	公園の機能やサービスに不満がある	3
②	個人的な事情	2
③	とくに理由はない	20

(複数回答)



出典：島外からの来訪者を対象にしたモニターアンケート調査結果（R7年度）

第4章 国営明石海峡公園淡路地区の将来像と 実現に向けた取組方針

検討にあたっての視点

- 3章の内容をもとに、**淡路地区の目指す姿**及び、目指す姿の**実現に向けた取組・施策の検討にあたっての視点**を整理。

公園整備の経緯と上位計画【3-1】

- 「花」「海」「島」を活かしたランドスケープと園遊空間がコンセプト ⇒ **（豊富な花や緑等の）自然・景観資源の活用、基本計画に則った特徴あるゾーンを構成場づくり**
- 開園に先がけ「ジャパンフローラ2000（淡路花博）」を開催⇒**淡路花博開催当時の施設配置や樹木の動線誘導等が一部、現存**

国営公園として求められる役割【3-2】

- 国営公園は、全国の都市公園を先導する役割を担っている ⇒ **全国の都市公園のモデルとなる先進的な取組の実践**
- 1. 安心・安全 ⇒ **利用者が安全かつ安心して利用できる環境の確保、自然災害への備え（災害拠点の継続）**
- 2. 環境・景観 ⇒ **自然環境の保全、自然を活かした景観の創出**
- 3. 子育て・教育 ⇒ **環境学習等の自然豊かな環境で遊び・学びの場の創出、多様な遊び場の創出**
- 4. 健康・福祉 ⇒ **心身の健康増進への寄与、障がいのある方を含む多様な利用者の受入れ**
- 5. 観光・経済・交流 ⇒ **観光利用等の促進による地域経済への寄与、多様な交流機会の創出、官民連携による魅力創出**

利用者の動向・ニーズ【3-3】

- 大阪府等の広域からの利用者が多く存在 ⇒ **周遊ネットワークの拠点として広域的な利用ニーズへの対応**
- 『（花や緑等の）自然の豊かさ』や『こどもの遊び場』の満足度が高い⇒**本公園の強みを踏まえたサービスの実施**
- 利用者層によって、目的・周遊範囲・滞在時間等に大きな違いが存在⇒**利用者特性を踏まえた取組・施策の実施**

■公園の将来像

- 公園の設置趣旨や整備経緯・基本計画を踏まえ、立地のポテンシャルを生かし、社会的要請や利用者ニーズに合致した公園施設が整備され、多様な利用者が安全・安心、快適に利用する
- 公園施設の整備や運営管理に多様な主体が参画し、相乗効果を発揮しながら、多くの公園利用者に満足度の高い魅力的なサービスを提供する
- 公園に隣接する施設を始め、淡路島内の観光施設と連携し、周遊観光の拠点として機能するとともに、地域住民のコミュニティの場として利用される
- 国土交通省直轄事業として、広域的な見地からの取組や、国が推進する施策を率先して実施する

《淡路地区の目指す姿》周遊ネットワークの拠点エリアとしての公園

STEP 1. 知ってもらう・興味を持ってもらう

- 花や緑、自然景観、淡路花博のレガシー等、本公園ならではの魅力を発信するとともに、新たな話題や体験機会を創出し、淡路島観光の玄関口として拠点エリアに来訪のきっかけを生み出す。

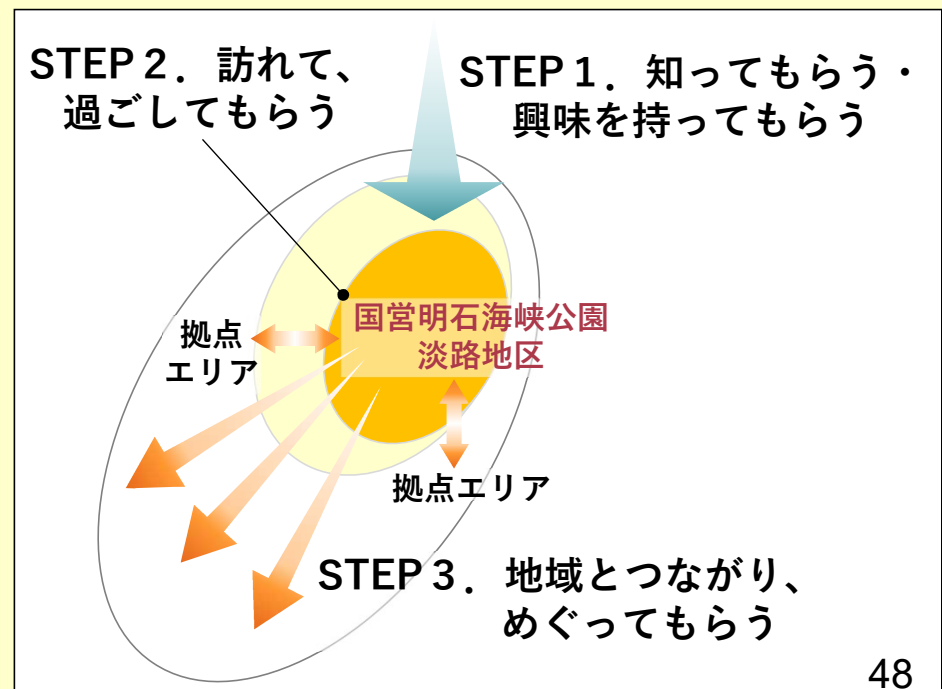
STEP 2. 訪れて、過ごしてもらう

- 花や緑、大型遊具、イベント等、多様な利用ニーズに応える魅力を提供する体験、学習、遊び、交流等の多様な楽しみ方や体験機会を充実させ、広域からの利用者や団体、民間事業者等の活動を受け入れ、幅広い世代が利用しやすく、安全・安心に過ごせ、ゆっくり滞在したくなる空間を形成する。

STEP 3. 地域とつながり、めぐってもらう

- 拠点エリア内の地域・団体や各種施設とのつながりを強化するとともに、淡路島全体の観光・交流資源との一体的な利用を促進することで、公園利用を周辺施設や島内各地への周遊につなげる。

■『周遊ネットワークの拠点エリアとしての公園』あり方イメージ



目指す姿の実現に向けた 留意事項・取組方針

■ 目指す姿の実現に向けた留意事項

- 公園施設の老朽化・陳腐化への対応
- 社会経済情勢の変化（人口減少・少子高齢化、インバウンドの増加等）への対応
- 夏季の猛暑、風水害の激甚化・頻発化への対応
- 限られた国営公園予算に対応した整備・管理の重点化と新たな収入源の確保

■ 取組方針

STEP 1.

知ってもらう・
興味を持ってもらう

- 認知度向上による来場者増加
 - ・SNS（関係主体の既存アカウントとの連携含む）等を活用した、広域的な情報発信媒体として来園のきっかけづくり
 - ・通過人口に対するアプローチ

など

STEP 2.

訪れて、過ごしてもらう

【魅力向上】

- 花修景の魅力向上
 - ・花修景の拡充、花修景を活かした魅力向上策を展開
- 利用実態に合わせた公園サービスの提供・新たな利用者層の発掘
 - ・既存利用者ニーズや新ニーズへの対応（飲食、ペット連れ等）
- Park-PFI施設と一体となった魅力向上
 - ・文化交流ゾーンと海岸ゾーン（Park-PFI）でそれぞれ異なる魅力や利用者層が有る一方、相乗効果の発揮による魅力向上が必要
- 園内関係主体間の連携強化
 - ・ボランティアやPark-PFI事業者等の園内関係主体との連携強化
- 園内移動の充実・園内の回遊性向上
 - ・公園の広さによる移動の負担（既存モビリティの運用改善・拡充）
 - ・園内移動を魅力的にするための仕掛け

【安全・安心】

- 公園施設の統廃合や利用転換を含めた更新・リニューアル
 - ・水景施設等の老朽化施設の効率的な改修・更新が必要
- 枯損木等対策
 - ・枯損木や台風による倒木被害（ポプラ）への対応
- 猛暑・ゲリラ雷雨対策の充実
 - ・猛暑や急な天候変化における利用者の安全確保

など

STEP 3.

地域とつながり、
めぐってもらう

- 地域とのつながりの強化
 - ・低未利用な施設・エリアを活用した、地域等の活動の場の提供
- 島内施設との連携
 - ・島内施設等との連携強化（情報発信、機能連携・分担、新たな連携主体の発掘 等）
- 地域等との連携・協議の場の設置
 - ・将来ビジョンの実現に向けた、定期的な協議の場の設置

など